

会議の名称	令和3年度 伊丹市手話言語部会
開催日時	令和3(2021)年6月30日(水) 14:00~16:00
開催場所	スワンホール3階 多目的ホール(中)
議長	原部会長
出席者	末吉委員、北村委員、渥美委員、江木委員、坂田委員、酒井委員
欠席者	なし
通訳者	障害福祉課 木崎 派遣通訳者 2名
議事次第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 市あいさつ</li> <li>2. 委員紹介</li> <li>3. 部会長あいさつ</li> <li>4. 遠隔手話通訳サービスについて</li> <li>5. 当事者団体との話し合いについて</li> <li>6. 委員による質疑等</li> <li>7. 閉会</li> </ol>
資料	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 次第</li> <li>② 委員名簿</li> <li>③ 座席表</li> <li>④ 事業報告</li> </ol>

## 議事要旨

### 1 市あいさつ

- ・配布資料の確認
- ・部会長の選任について

### 2 委員紹介

- ・所属・氏名等

### 3 部会長あいさつ

- ・部会長あいさつ

### 傍聴等

- ・傍聴者報告
- ・傍聴者注意事項
- ・署名委員選任
- ・進行にかかる注意事項

### 4 遠隔手話通訳サービスについて（事務局より説明）

新型コロナウイルス等の影響で、聴覚障がい者が病院への受診に際して、手話通訳者等の同行が困難な状況の場合がある。そういった場合でも遠隔での手話通訳を実施することで、安心して手話通訳を受けられるような環境を整えることを目的に実施。

兵庫県で使用しているブラウザベースの遠隔手話サービスシステムを活用しており、特定のアプリのダウンロード等は不要で、指定の URL にアクセスするだけで利用することができる特徴。

制度の流れとしては、まず、利用者は、希望日の1週間前に、市に依頼する。それを受け、市が通訳者等の派遣調整を行い、利用者に対して、決定内容をメール等で通知する。

通知を受けた利用者は、当日、通知に記載された URL にアクセスし、通訳者は、当日、遠隔で通訳支援を実施するという流れ。

具体的な利用者サイドの流れとしては、令和3年度は制度初めということもあり市障害福祉課手話担当に対し、希望日の1週間前までに、メール又は FAX にて、要件や希望する日時等を通知し、依頼する。その後、市から、派遣決定の通知をメール又は FAX で受け取る。当日、派遣時間になったら、通知に記載された URL をクリック、又は QR コードを読み込み、緑色の「手話」ボタンを押す。待機している通訳者と繋がったら通訳支援を受けるといった流れ。ただ、派遣先でインターネット利用の可否について、事前にご確認の上、ご依頼いただく必要があり、利用者所有端末にかかる通信料等については自己負担となる。

一方通訳者の動きは、こちらも今年度は障害福祉課手話担当から依頼を受ける。調整がつかば、詳細について案内し、当日、アイ愛センターの受付にて遠隔手話用パソコンセットを

受け取り、1階相談室に入室。パソコンを立ち上げ「待機」ボタンをクリックする。時間になると利用者から着信があるので、「応答」ボタンをクリックし、利用者と繋がったら通訳支援を実施、通訳終了後、パソコンセットをアイ愛センターに返却し、市に後日内容について報告するといった流れ。

今後説明会等を検討している。

## 5 当事者団体との話し合いについて

2月と4月に当事者団体との話し合いの場を持った。本年度も手話言語部会に向けて部会で話し合いたい内容について多くの意見が出た。当事者からの意見を直接聞くことができ、とても良い機会になった。特に多かったのが、「情報の届け方」。どのように発信したら当事者の方が受け取ることができるのか、今後の大きな課題であると考えており、今回の課題として、聴覚障害の方に向けての情報発信・受信の方法について、話し合っていただけたと思う。

## 6 委員による質疑等

### 【原部会長】

当事者団体との話し合いでは具体的にどのような話が出たのか。

### 【A委員】

聴力障害者協会の役員と行政の障害福祉課の手話担当で集まって話し合った。

条例を知らないろうあ者に、どのように情報を伝えていくのか、聴覚障害者の方々にどいう風に情報を広げていくのか、ということが本格的な問題として浮上した。

今回の遠隔手話通訳サービスについても、情報を発信してもどこまで受け取ってもらえるのかということや、前回の言語部会の時には、youtube を使用しての情報の発信が挙がっていたが、youtube を使える方というのが年齢層など限られており、それ以外の方へ情報を行き届かせるための方法を一緒に考えたい。

ワクチンのこともそうなのだが、広報に掲載しても、情報を受け取れないろうあ者に対し、正しい情報を受け取ってもらうための方法を、委員の意見も踏まえながら参考に進めていきたい。

### 【原部会長】

情報社会で、情報が溢れている中で必要な情報がなかなか伝わりにくい、伝わっていないという本当に大きな課題だと思う。

IC 機器もない時代の情報伝達手段として、例えば町内会で回覧板があった。ろうあ者の家だけ飛ばされたというような話も聞いたことがあるが、書いたものが何某か回ってくれば、その内容がわからなかったら、手話通訳の方等に聞きに行くということになると思う。

パソコンや youtube の場合、そもそもどこに何の情報があるのか見えないため、その情報をどのように掴むかが課題。若いうあの方たちは情報入手に長けており、パソコンや

スマホを駆使されているが、そういう機器を使わない年齢の高い方たちへの情報をどういう風に保障していくのか。ご意見をお願いします。

#### 【B 委員】

サークルの中でも、聞こえない人たちにこの条例の文章を伝えるためには、どのように表現したら良いのかということは、一緒に考えてきた。今一度原点に立ち返り、言語条例をもう一度表現したり、考え直したりして、皆が咀嚼した上で、サークルに来られるろうあの人や、街でお会いする聴覚の人たちに、ちょっとした話の中でコミュニケーションとして伝えられていくと、文章ではないので残らないが、何か心に留めておいてもらえるのではと感じる。

#### 【原部会長】

サークル活動はとても貴重だと思います。そこでの話し合いでいろいろなことを知ったり、情報共有をされたりすると思う。

他にもいろいろあるのではないかな。

#### 【C 委員】

まず、聴覚障害者は聞こえない。聞こえないので、視覚で情報を取るとというのが我々聴覚障害者。その場合紙又は生の手話での情報となるが、その他の方法があれば教えていただきたい。聞こえない立場では、耳から情報を得ることはできず、目からの情報が基本となる。その中でも、手話での情報が一番良いと思う。

アイ愛センターでは、テレビを置いて画面から情報を得るという方法や、動画やチラシという方法もある。いろいろ手段はあるが、すべて目からの情報である。

県の情報センターでは、ろうあ者が情報を表す場合、情報センターの所長が代わりに手話で録画してそれを放映するという方法をやっている。

聞こえない人が、目からの情報を取れるようにしたら良いと思う。

#### 【原部会長】

本当にそのとおりで、視覚情報をしっかり見ていただく、そういう環境が大事。

コロナに関するニュースでは、知事や政府の方に手話通訳が付くようになりましたが、実際、肝心な手話通訳の方が映らなくて通訳が見られない時があり、内容がわからないという状況になっている。本来必ず映らなければいけない。

国際ニュースを見ていると、フランスや韓国、ニュージーランド等の手話が公用語になっている国ではきちんと手話通訳が映っている。そのように在らねばならない。

また、情報の所在に関して、情報提供施設も、よくニュース等を手話で提供しており、コロナが今どのようなになっているか等の毎月最低限の情報が、そこを見たらわかるようになっているが、伊丹市はどんな状況か。市長が手話で挨拶していると以前お聞きしたが、

それ以外にもあるのではないか。

日常生活において情報は大事で、生きていくためにも本当に大事なこと。今日も来る時に、たまたまスマホでニュースを見ていたら、大阪市でコロナに感染してホテルで隔離されていた人が逃げたと報道されていた。その人が捕まったというニュースも文字で読んだわけだが、そのような情報も大事。もしかしたらコロナに感染して逃げている人がいるかもしれない、その人と遭遇したら大変だななど、本当に生きる上で大切な情報がたくさんある。そういう時に、文字情報だけではなく、手話でももっと見ることができると良いということだと思う。どうしたらそれが進んでいくのか。

伊丹市手話言語条例、良い内容だと私は思っているのですが、それをもっと実践していくためにはどうしていったら良いか。

#### 【B 委員】

市長の新年の挨拶などは、FM 伊丹の動画で流されている。部会長が仰っていたような、最低限月1回、それが2週間に1回になって、1週間に1回になるという風に、まとめてでもニュースが流れるということになると良い。

伊丹には長寿蔵という酒屋があるが、近くの交差点で信号待ちをしている時に動画を見ることが出来る。アイ愛センター等のような施設にわざわざ来なくても、見られる。数は設置できないかも知れないが、道で信号待ちしている時にふっと見たら何か流れていたりすると、見ますよね。長寿蔵のような所で少しでも見られるようになると、一般の人も「そういう風に手話をする」と分かったり、聴覚の人の目に触れたりすると思うので、何を言っているのだらうと内容を見てもらえるとちょっと良いのではと感じた。

#### 【A 委員】

動画を発信するという意見が出た時に、それを表現するのは通訳者なのかろうあ者なのか、どっちが出たらいいのかということがある。

通訳者じゃない方が良いとすれば、おそらく聴力障害者協会の方たちに出演をご協力しなければならなくなる。そういう場合、協力可能か。

#### 【C 委員】

A 委員の意見はすごく良いと思う。やはり我々ろうあ者が出て手話アナウンスをお伝えするというのが良いと思う。ただ、ろうあの方全員が協力していただけるかどうかはこれからの課題。きっと、「私はできないので他の人に」と言う方も出てこられると思うが、それは課題として残しておいて、進めていったらいいのではないかと思う。

#### 【D 委員】

情報発信と受信ということに関わる問題だと思ったのは、ワクチン接種のこと。伊丹市ではワクチン接種をするのに、一つの場所で受けることになる。ワクチン接種するスタッ

フの人たちのためにも一つの場所でした方が良いだろうという話し合いになって、私も看護師なので、ワクチン接種担当者の方と話し合いをしながら、ろうあ者の人たちがスムーズに撮取を受けられるように、今、A委員や他の人たちともお話しをして進めさせてもらっている。

それにも、A委員が一生懸命皆さんに情報発信をされているのですが、うまく伝わらない状況になってしまっている。

一人でスマホを使える人はスマホで申し込みをする、きちんとA委員にご相談されている方はA委員に予約を取ってもらえるということになっています。個人の自由ですので、撮取するのは構わないと思うのですが、手話通訳者の人数が限られていて、あちこちで接種するとなると大変な状況になっているので、A委員一人で困っておられる様子を目の当たりにして、それも情報発信・受信の不都合で起こっていることではないかと感じており、これもどういう風に解決すれば良かったのだろうと今思っている。

#### 【原部会長】

大変な状況ですね。伊丹市の状況はわからないが、聞こえない方たちが「そこに行ったらみんながいるから行こう」とか、「夜そこに行ったら食べ物も出る」とか、常日頃よく集まる場があれば、A委員がそこで予約方法等について情報提供ができる。情報提供施設がそういう場である所もあるかと思うが、お仕事をされていて夜しか集まれないのに夜に情報提供施設が開いていない等の課題があるかも知れない。

海外の例で恐縮だが、アイルランドで素晴らしい例を見た。アメリカ等でも昔から教会で集まる場があるが、アイルランドではDeafVillage（デフ・ビレッジ）という名前がついていて、日中でも夜でも、集まることができる。その敷地内にスポーツクラブが運営されていて、そこは地域の人が自由に利用することができ、聞こえない方たちも利用し、交流を持つこともできる。夜はお酒が出たり、手話で何か話をしたと思ったらそこに行ったりというのがあり、良い例だと前から思っているが、行政が関わるとなると制約があって難しいかも知れない。

しかし、そういう所に行って必要な情報を流したら良いと思う。いろいろな形を考えていけないといけない。

外国の話为例に挙げたが伊丹市でできるものは何かなど、現実的に考えていけないといけない。皆様の横のつながり、コミュニティがあると思うので、そういう所に出かけて行って予約の仕方など、情報提供ができれば良いと思う。

#### 【E委員】

先程youtube等で情報を得る意見があったが、情報を得るための工夫を生活の中でされており情報の取り方も増えてきていると思うのが、どんな方法であれば情報を得られるのかということは、ろうあ者の皆さんが一番分かっているのかなと思う。

その当事者団体の強みというか、団体に勤めている自分たちが自分たちの生活をしやす

くしていくために、どこにどういうものがあれば情報を取っていいのか意見を出し合い、ないものは自分たちで提案して作っていくということも重要なことなのではないかと思う。

それを一番わかっているのが当事者の方で、それがどういう形でできるかという風に考え、生み出せるのが当事者の皆さんの思いや考えだと思う。当事者だけではできない部分を、例えば行政や支援者に提案していただくことで、我々が協力できるものがあれば、行政と一緒に考えていくということができると思う。そうすると、より具体的に情報を得られるツールを生み出していけると思うので、そういった当事者団体の強みとして、皆さんの声を具体的にしていこうという形で取り組んでいくのが大事なのではないかと思った。

#### 【原部会長】

当事者団体は以前から運動体としてとても活躍されていて、全日本のろうあ連盟も様々な活動をされている。ホームページも充実しているなど色々あるが、伊丹市ではどのようにしていけば良いのか。

#### 【E 委員】

例えば、「自分たちだったらこういう所にこういう情報があればみんなが見に行ける」とか、インターネットで挙げれば、「こういう所にこういう情報を置くようにしたらみんなが見られる」など、ここにこういうものを作ってみんながそこで見ていけるような働きかけをして、そこで情報を得られるような仕組みを当事者団体で作っていくなど、皆さんの意見に基づいた、自分たちがいられる場所を自分たちで作っていくような形も、考えていけるのではないかと思う。

#### 【原部会長】

本当にそうですね。まず何から始められるか。

大きなことを考えて、お金もかかる、人もいる、となると実現性が低いので、「今取り組めることは何なのだろう」ということをまず考えていくと、一步一步進んでいくことができる。

最初の一步は小さくても、積み重ねていったら大きくなる。

#### 【B 委員】

本当に「最初の一步」だが、2月と4月にろうあの人たちと話し合いをしたが、それは問題を吸い上げるというか、自分たちの要望を出し合っただけです。さっきA委員が話しておられた映像で出すなら、聞こえる人が手話でするのか、聞こえない人がするのかというところも含めて、今E委員がおっしゃったように、当事者団体が話し合いを重ねて、どういう風にするのが一番良いのか、自分たちの要望はどんなものなのかというのを、もっと話し合っただけで練り上げていかないと、ここの部会だけでどんなものと言っても、おそらく

まとまらないと思う。聞こえない人たちそれぞれの思いというものも、コロナ禍で集まりにくい状況ではあるが、何回も話し合いを持つのも必要。

**【原部会長】**

本当にその通り。具体的にどういう風にしていけば良いか。

**【A 委員】**

2月と4月に話し合いをした際に感じたが、出席してこんな話があったということ、他の会員さんに知らせてもらっていたら、条例に対する思いや条例の進捗状況が広まってくと思う。役員として出席した話を少しでもいいので、知り合いの、出席しなかった人たちに話してもらうということ、傍聴されている皆さんにも協力していただいたら、少しずつ情報が広がっていくのではないかと思います。

4月の話し合いの時にワクチンの話を申し込みの方法も含めてさせてもらったが、出席した方だけが知っているという状況で、みんなと情報を分かち合ってもらおうというご協力をいただければ、少しずつでも変わっていくのではないかと思います。

**【F 委員】**

A委員がおっしゃっていた4月の話し合いには、都合が悪くて欠席した。その際、ワクチンの申し込み方法等について、5月1日の広報に、聞こえない人専用のFAXの番号が載るので、それを見て申し込みをするよう案内があったとのこと。他の聞こえない方にもきちんとFAX番号を伝え、自分で連絡するよう伝えていたのが、結果はバラバラで少し残念だった。

インターネットなどの機器を使える方は個人で申し込みをしていたが、やはり私たち団体としては、市の番号をきちんと連絡していただいている場合、出来るだけそれを利用するようにしないと、利用者が少ない所為でそれがなくなってしまうと困る。市から連絡がある時は、それを利用するように私たちも考えていかなければならないと思った。

しかし、若い人はいろいろな機器を使えるので、私たち危機の仕様が難しい人にとっては、せっかくの機会なので色々考えた方が良くと思った。

**【原部会長】**

色々な行政の取り組みがあるが、それを100%使い熟せていないこともあったということでしょうか。なかなか難しい問題。

情報の届け方は、本当に基本的な大事なテーマだが、今までこの手話言語部会であまり話し合われず、「具体的な〇〇についてどうすべき」という議事が多かった。

本当に基本的なところだと思うので、やはり地道に声を上げていくということでしょうか。声を上げていかないことには理解も進んでいかないし、聞こえない方たちは市民の中では非常に少数派ですので、当事者の方たちにはどんどん声を上げていただいて、聞こえ



ない方のニーズをわかってもらう必要がある。もちろん、関係者の方々、専門機関、専門職の方々、行政もそうだが、代弁という形で聞こえない方にとって、より良いことをいろいろ提案すると思うが、やはり当事者でないと伝わりにくいこと、聞こえる者にとってわかっていないことが本当のニーズ。そういう声をどんどん上げていただいたら良いと思う。

そういう声を上げていく場はどこになるのか。今ここでは手話言語条例ということで、お話しをできる場があるが、それ以外に聞こえない方たちのニーズを拾い上げていく場はないか。

#### 【A 委員】

団体からの要望は、障害福祉課に一旦持ってきて、課長と相談をするということになると思う。

#### 【牧村課長】

団体と一番よく接しているのは障害福祉課になるため、言いやすいところに言ってもらえたらと思う。案件によって、障害福祉課以外のところと関わりがあることもあると思うので、様々な所で発信していただくのが一番効果的だと思う。

#### 【C 委員】

我々聞こえない立場にも、いろいろな情報が実際はある。その情報が我々には合わない情報もあるし、合う情報もあり様々。また、個人の考え方、受け取り方もそれぞれ違うため、提供する場所、我々の団体として、窓口をはっきりしなければならないと思う。

「持っていく場所」と言うと、やはり障害福祉課、行政に持っていくのが一番良いと思っている。

#### 【原部会長】

障害福祉課等行政に希望などの申し入れをする機会は、定期的にあるのか。1年のうちでいつ頃という風に決まっているものか。

#### 【C 委員】

そういう風に決められてはいない。これから定期的に持っていく機会を作ると良いのか、相談しなければならないか。

#### 【A 委員】

2月と4月の話し合いでもお伝えしたが、特別に行政と何かをするということではなく、聴力障害者協会としての定例会の場が、意見をすくい上げる場と考えている。何か生活上不都合なことや意見、要望があれば、月1回の役員会で意見をすくい上げていただ

き、そこで意見を統一して、出さなければいけない要望であれば、障害福祉課に持ってきていただけたら、一緒に解決できる方法が見つけれられるのではないかと思います。

要望がある度にはなく、要望をどうしたいかというところまでを協会で話し合っていたらありがたい。

#### 【D 委員】

再びワクチン接種のことを例に挙げると、今回のワクチン接種に関して通訳の派遣の要望があったと障害福祉課に聞いている。ただ、それは通訳を依頼したいというだけのこと、実際にはどのような形でしたら良いのかという話し合いは十分に出来ていないままだったのではないかと思います。A 委員や私もワクチン接種の場所にいたため、そこで話し合ってしまったが、もしかしたら、ろうあ者の方もそこに入ってもらって、どういう風にすれば良いのかということ話し合った方が良かったのではないかと少し思う。ただ、そういう場作りをしていかなければならず、ただ要望したというだけではなく、それをどのような形ですると、当事者、ろうあ者の人たちもスムーズにいけるのか。やはり要望だけではなく、今 A 委員が言われたようにその後どうしていったら良いのかという話し合いの場所を作っていくことが大事なのではないか。

#### 【原部会長】

やはり、当事者だからわかる要望が必ずありますね。遠隔手話通訳サービスもそうですが、具体的に、緊急の場合もあるかもしれないとか、もっとこうしてほしいという要望があれば、やはり今がチャンスだと思う。他の市町村等では、年に何回か交渉するような場があるが、伊丹市は本当に話し合いができる状況があるようなので、しっかり話し合いをされると良いのではないかと思います。

その他ないか。

#### 【D 委員】

手話通訳派遣で、このコロナ禍の中、病院で通訳となると、感染を受ける危険性が通訳者にはある。ワクチン接種の場所についても、そこに通訳を派遣する場合は、通訳者にもワクチン接種をさせていただきたい。たまたま私は看護師だったので、前もってワクチン接種はできていたが、今のところそれ以外の人もおられる。やはり、これからもそういう現場に通訳派遣をする場合があると思われるので、これは障害福祉課や市にお願いしたいとかではないが、せめて早めに安心して通訳派遣にいけるように、そしてろうあ者の人も安心して依頼ができるようにしていただきたいと思いますので、早期にワクチン接種を受けられる機会を作っていただきたい。

#### 【原部会長】

本当にそうだと思います。対人援助職として、一日も早くワクチン接種をしなければな

らない。障害福祉課の担当ではないと思うが、お伝え願えないか。

【牧村課長】

接種が始まる時にそのようなお話も聞いていた。担当に伝えていたが、当時はワクチンの数も限られているような状況で対応できないと回答を受けていた。確かに、医療現場で通訳に従事される方に対しては、やはりスタッフに準じる扱いが必要ではないかと思えますので、来年も引き続き同じような接種などが続くようであれば、改めて依頼する。ワクチン接種班という担当があるが、そこも手探りの状況で今までやってきたという状況で、なかなか十分な対応ができていなかったのは確かなのですが、今回いろいろと経験を積んでいますので、善処してくれると思うが、こちらからも当然働きかけていきたい。

【原部会長】

ぜひ再三依頼していただけたらと思う。それこそ当事者の声なのですよね。聞こえない方の当事者の声も上げていただかないといけないですが、手話通訳者という立場での当事者の声として、ワクチン接種を一日も早くしたいということは、本当に再三言っていたかないと、ワクチン接種班の方たちにとっては、手話通訳の方が早くワクチン接種をしなければいけないというのがピンと来ないのではないかと想像される。一日も早い対応をよろしく願います。

来年は、遠隔手話通訳サービスが実際このように進んでいますということを知らせていただきたい。情報発信、当事者の方たちにとっては受信ですが、本当に基本的な大事なことなので、進展について聞けたらありがたい。

7 閉会



